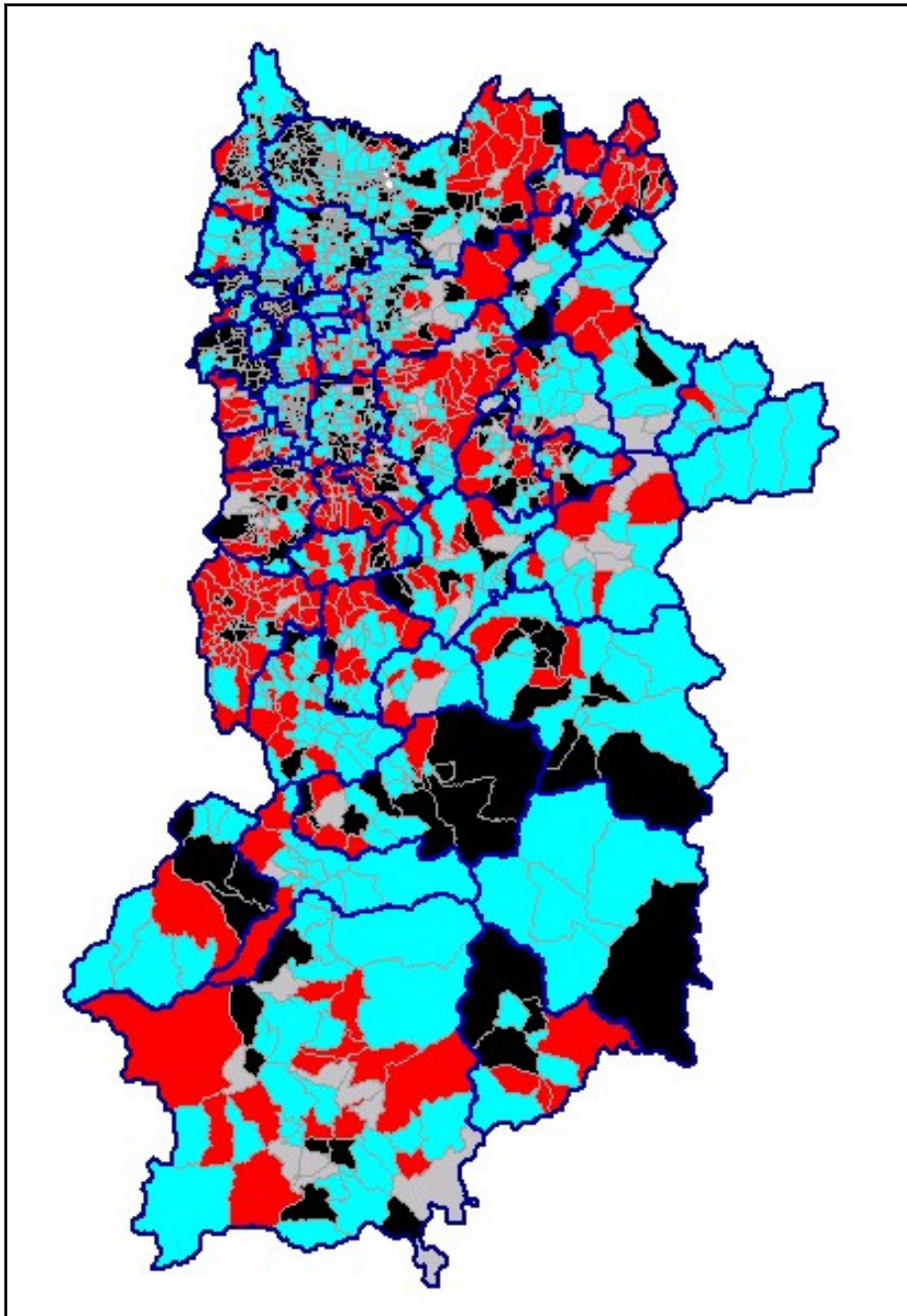


農・林業集落アンケートによるアライグマの生息・農業被害動向について

本レポートは、平成22年度緊急雇用事業で実施した野生鳥獣の農業・林業集落アンケート調査結果と平成20・21年度に森林保全課(森林整備課)が自然環境研究センターに委託して実施した野生鳥獣の農業・林業集落アンケート調査の結果に基づくものです。アンケート調査であること、現地調査を実施していないことから、あくまで奈良県の傾向を把握するものとなっています。

なお、調査年度については平成20年度には前年度つまり平成19年度の内容を、平成21年度には平成20年度の、平成22年度には平成21年度の内容を問うています。

図 平成19年度のアライグマの分布



右図は、平成19年度の農林業集落アンケート調査による、アライグマの分布である。

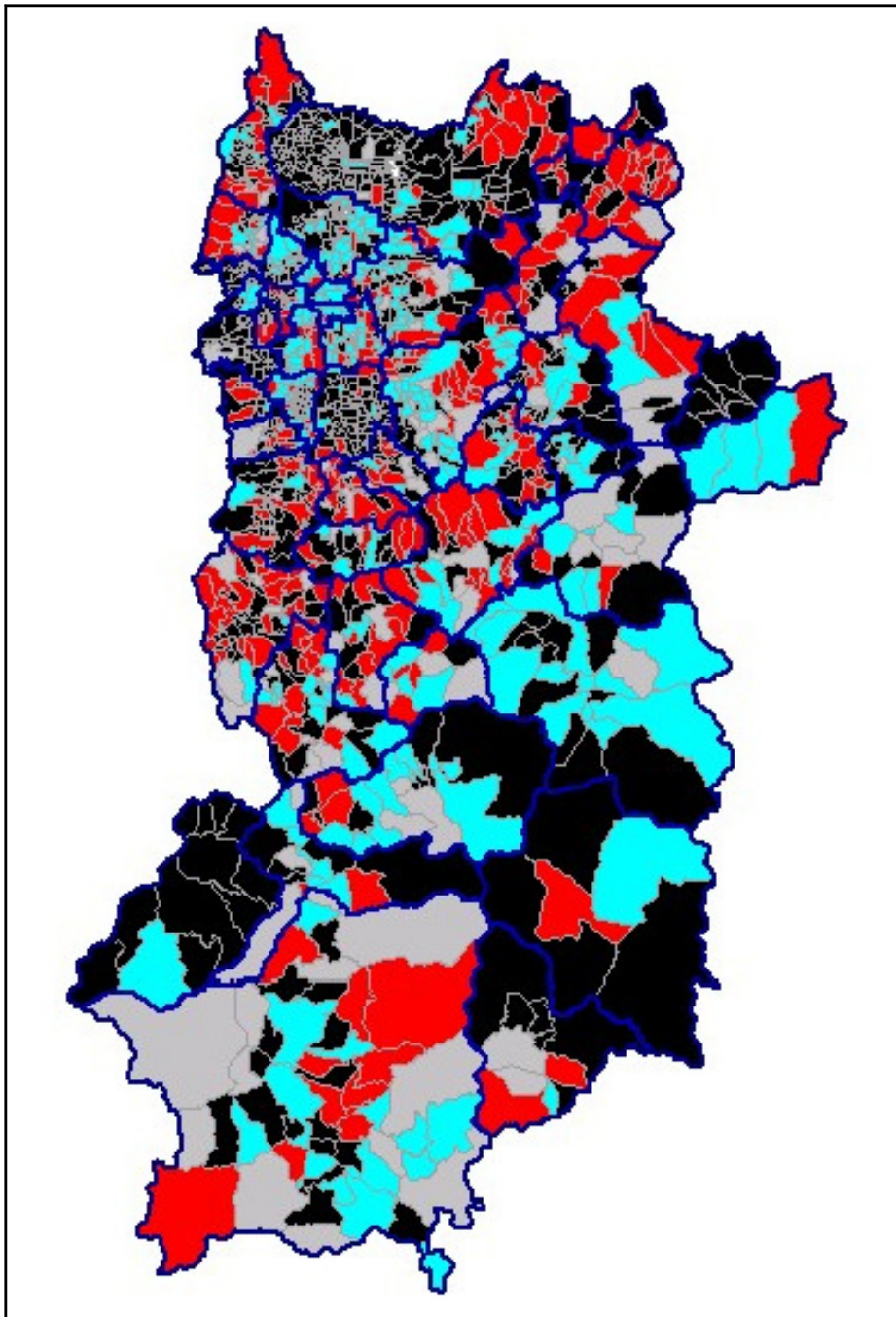
農業集落でアライグマが「いる」と回答があった場合にいるとしている。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

アンケート調査からは、県内の広い範囲で生息している状況がわかる。

■	いる	355集落
■	いない	596集落
■	無回答	100集落
■	回収無	757集落
	全	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

図 平成20年度のアライグマの分布



右図は、平成20年度の農
林業集落アンケート調査に
よる、アライグマの分布であ
る。

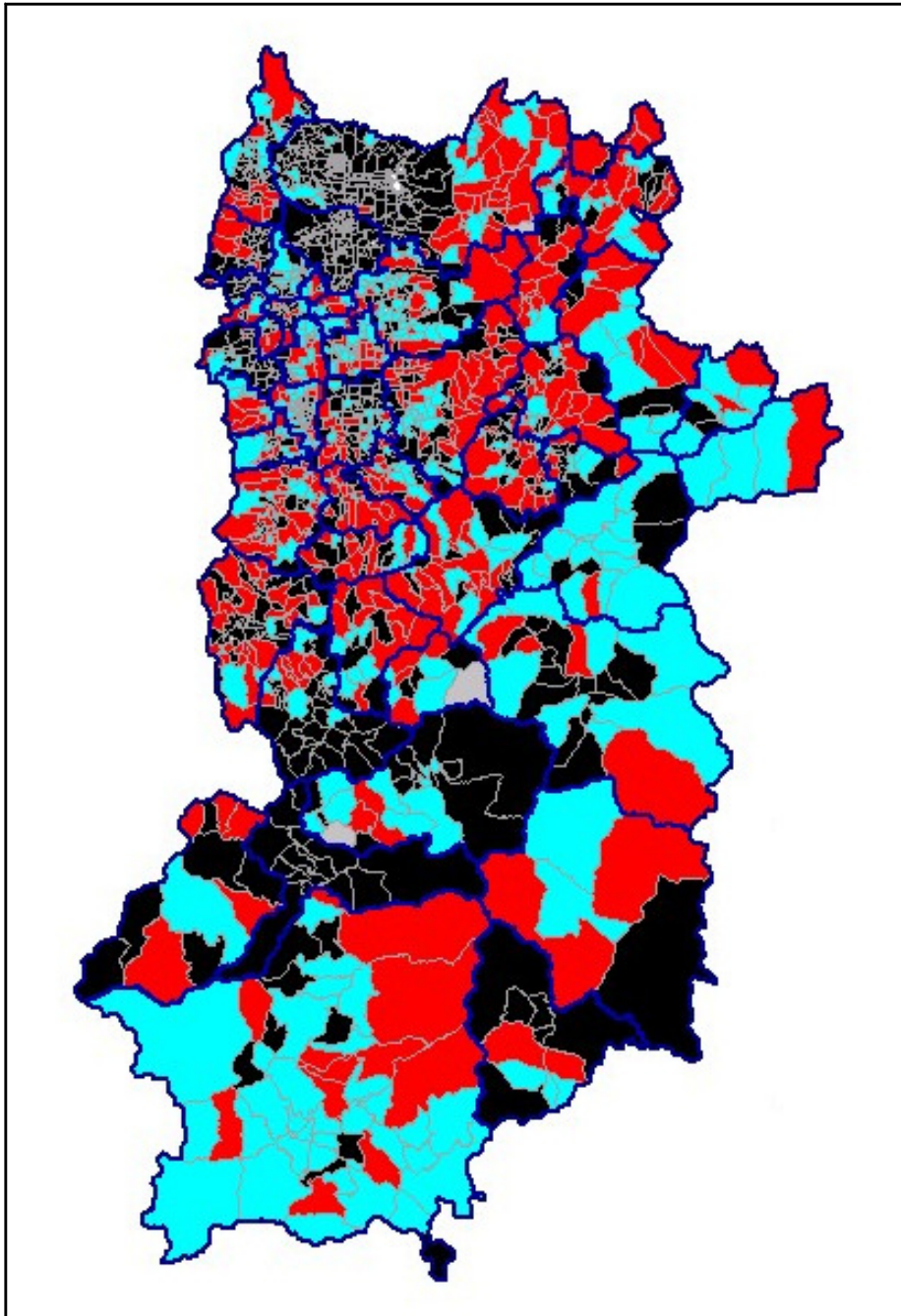
農業集落でアライグマが
「いる」と回答があった場合
にしている。回収無し
には既に人が住んでいない
集落も含まれている。

アンケート調査からは、前
年度同様に、県内の広い範
囲で生息している状況がわ
かる。

■	いる	322集落
■	いない	318集落
■	無回答	117集落
■	回収無	1051集落
		全 1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

図 平成21年度のアライグマの分布



右図は、平成21年度の農
林業集落アンケート調査によ
る、アライグマの分布であ
る。

農業集落でアライグマが
「いる」と回答があった場合
にしている。回収無し
には既に人が住んでいない
集落も含まれている。

アンケート調査からは、前
年度までと同様に、県内の広
い範囲で生息している状況
がわかる。

■ いる	417集落
■ いない	367集落
■ 無回答	3集落
■ 回収無	1021集落
全 1808集落	

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

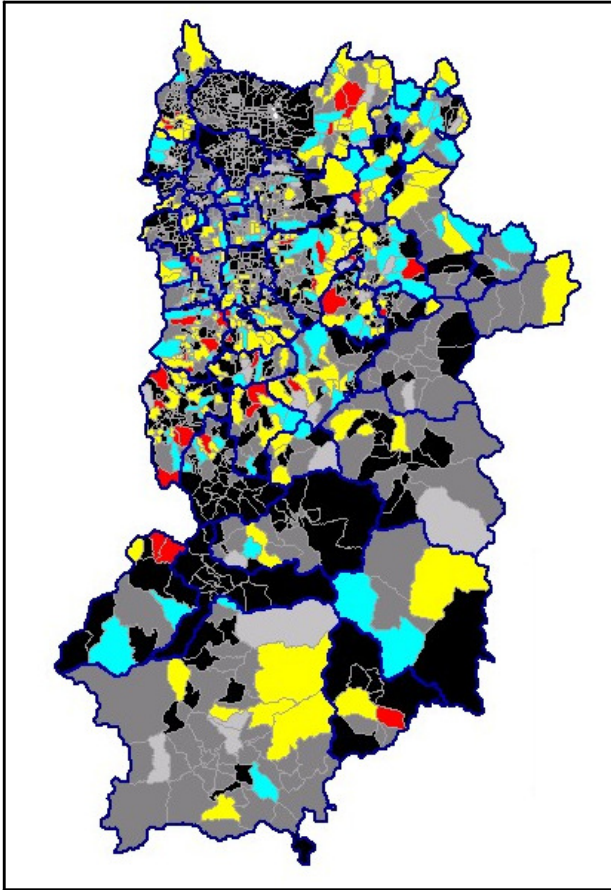


図 平成21年度の農地・集落周辺への出没

右図は平成21年度の農業集落アンケートによる、農地・集落周辺への出没状況である。

県北東部から県中部、県西部にかけてよく見ると回答があった地域が多くなっている。これらの地域で生息数が多いことが予想される。

よく見る	39集落
たまに見る	206集落
あまり見ない	134集落
回答無	41集落
分布無	367集落
回収無	1021集落
全	1808集落

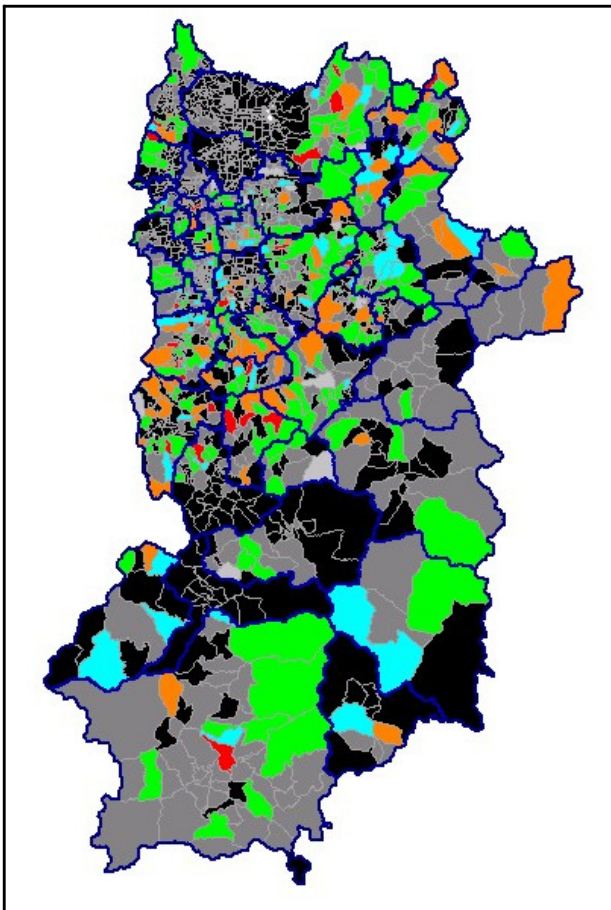


図 平成21年度の被害程度

右図は平成21年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

アライグマが分布しており、かつ回答のあった404集落の内訳は下記の通りである。

アライグマの農業被害は、ほとんど無いか軽微なものが多い。しかし、大きな被害を受けているというものも約26%存在する。そしてこれらの地域は農地・集落周辺への出没が多い地域と同じ傾向であることがわかる。

ほとんど無い	67集落(16.6%)
軽微	230集落(56.9%)
大きい(生産量の30%未満)	81集落(20.0%)
深刻(生産量の30%以上)	26集落(6.4%)
計	404集落

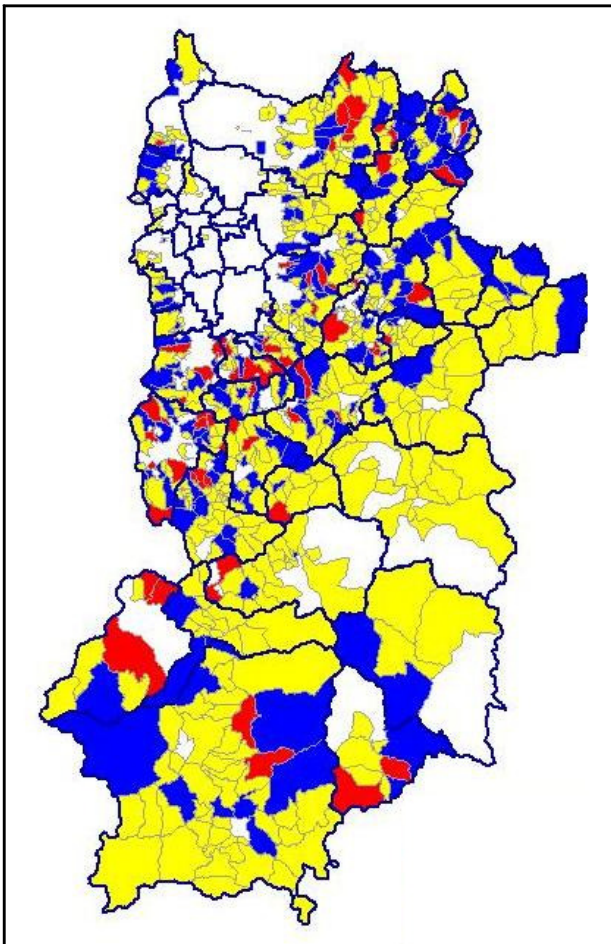


図 農・林業アンケートによる農地・集落周辺への出没の増減

右図はアライグマの農地・集落周辺への出没の3年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのアライグマの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ているが、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけした。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。なお、空白は調査した3年間、アライグマがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

アライグマの農地・集落周辺への出没は、県北東部から県中部、県西部、県南部にかけて目撃が多くなっている。県東部では少ない。しかし、アライグマが県内の広範囲にわたって分布していることには変わりはない。

■ よく見る	66集落(9.4%)
■ たまに見る	457集落(64.8%)
■ あまり見ない	182集落(25.8%)
回答数	705集落

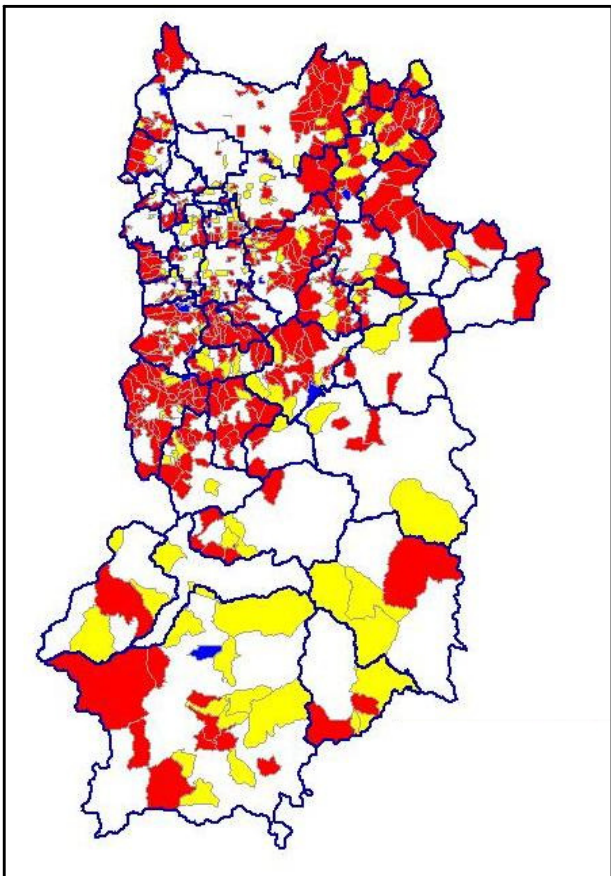


図 農・林業アンケートによる農業被害の増減

右図はアライグマによる農業被害の意識の3年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ているが、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけした。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した3年間、アライグマがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

アライグマによる農業被害の意識は、ごく一部では減っているものの、回答を得た集落のうち70%以上が増えたとなっており、全体的に増加傾向にあることが判る。

■ 増えた	421集落(70.3%)
■ かわらない	165集落(27.5%)
■ 減った	13集落(2.2%)
回答数	599集落

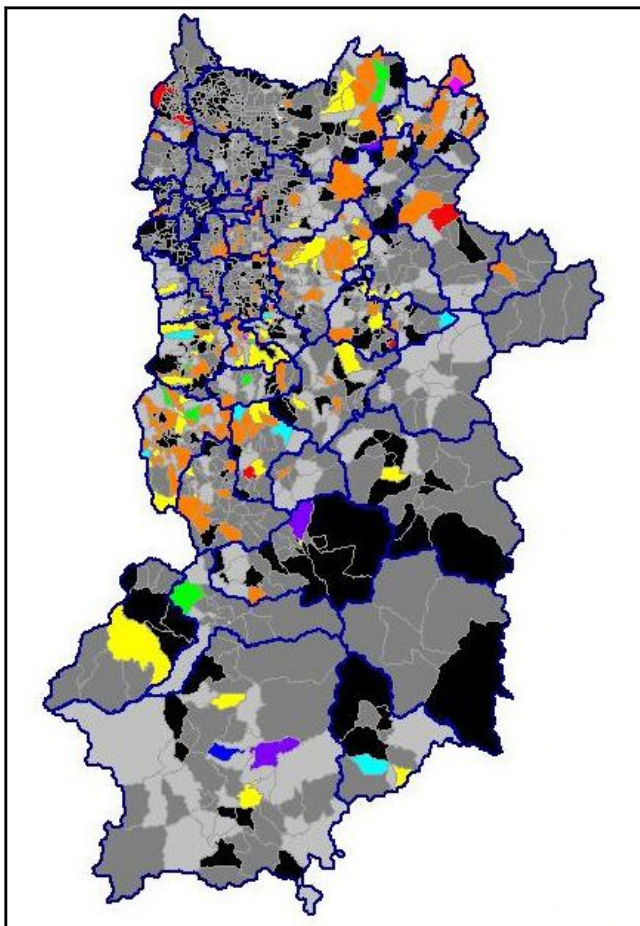


図 アraigumaの出現時期(平成19年度アンケート)

右図は平成19度の農業集落アンケートによる、アraigumaが農地・集落周辺に出現するようになった時期の意識調査の結果である。

アraigumaの出現時期は、わずかながら昭和期にも出現したと回答があった。しかし、殆どは平成期に入ってからとの回答であり、特に平成10年～平成14年期以降に増加し、平成15年～19年期が最も多くなっている。なお、平成19年度のアンケート調査に平成20年の回答があるのは、アンケートは平成20年度に実施し前年までの状況を問うているが、回答者が当年の記載をしたためである。

平成20年以降	10集落
～平成19年	150集落
～平成14年	63集落
～平成9年	10集落
～平成4年	9集落
平成年間	3集落
～昭和62年	2集落
昭和年間	3集落

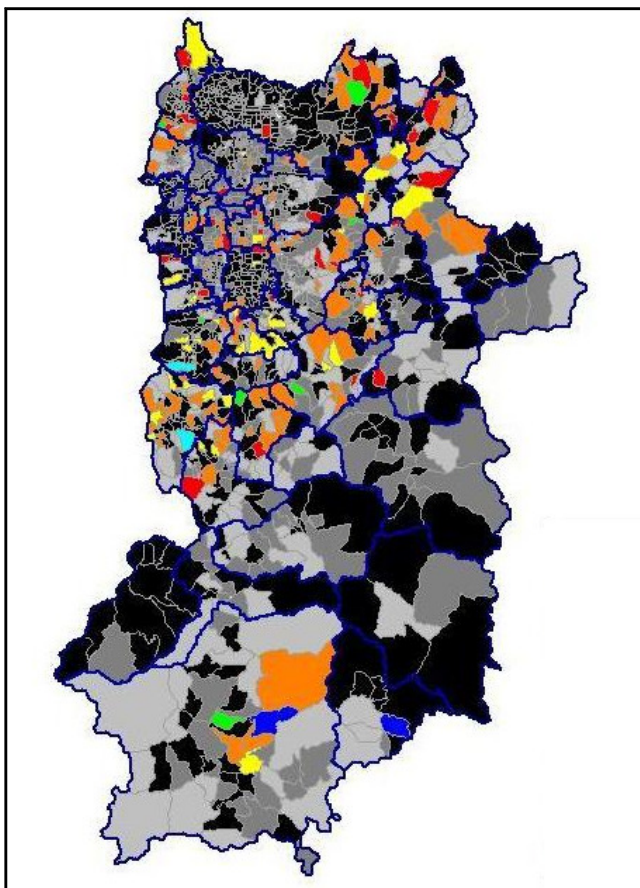


図 アraigumaの出現時期(平成20年度アンケート)

右図は平成20度の農業集落アンケートによる、アraigumaが農地・集落周辺に出現するようになった時期の意識調査の結果である。

アraigumaの出現時期は、わずかながら昭和期にも出現したと回答があった。しかし、殆どは平成期に入ってからとの回答であり、特に平成10年～平成14年期以降に増加し、平成15年～19年期が最も多くなっている。なお、平成20年以降の件数については、アンケート調査は平成21年に前年までの状況を問うているが、回答者が当年の記載をしたため実際よりも多くなっている。

平成20年以降	45集落
～平成19年	143集落
～平成14年	39集落
～平成9年	7集落
～平成4年	4集落
平成年間	3集落
～昭和62年	3集落
昭和年間	0集落

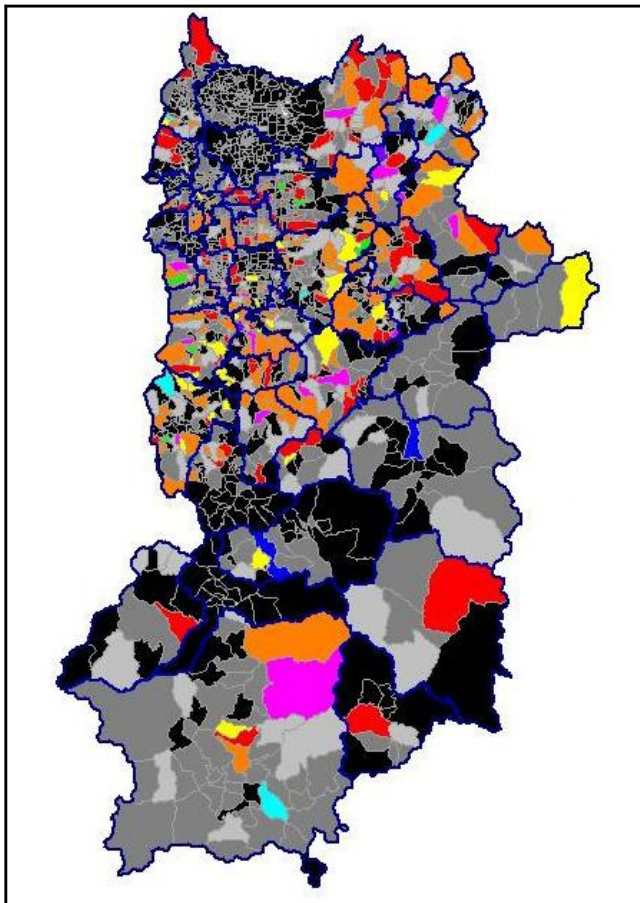


図 アライグマの出現時期(平成21年度アンケート)

右図は平成21度の農業集落アンケートによる、アライグマが農地・集落周辺に出現するようになった時期の意識調査の結果である。

アライグマの出現時期は、ごくわずかに昭和30年代・50年代に出現したと回答があった。しかし、殆どは平成期に入ってからとの回答であり、特に平成10年～平成14年期以降に増加し、平成15年～19年期が最も多くなっている。平成20年以降の件数については、アンケート調査は平成22年に前年までの状況を問うているが、回答者が当年の記載をしたため実際よりも多くなってはいるが、平成20年以降の2～3年で平成10年～平成14年期を上回る程多くなっている。

平成20年以降	106集落
～平成19年	136集落
～平成14年	34集落
～平成9年	8集落
～平成4年	4集落
平成年間	18集落
～昭和62年	3集落
昭和年間	2集落

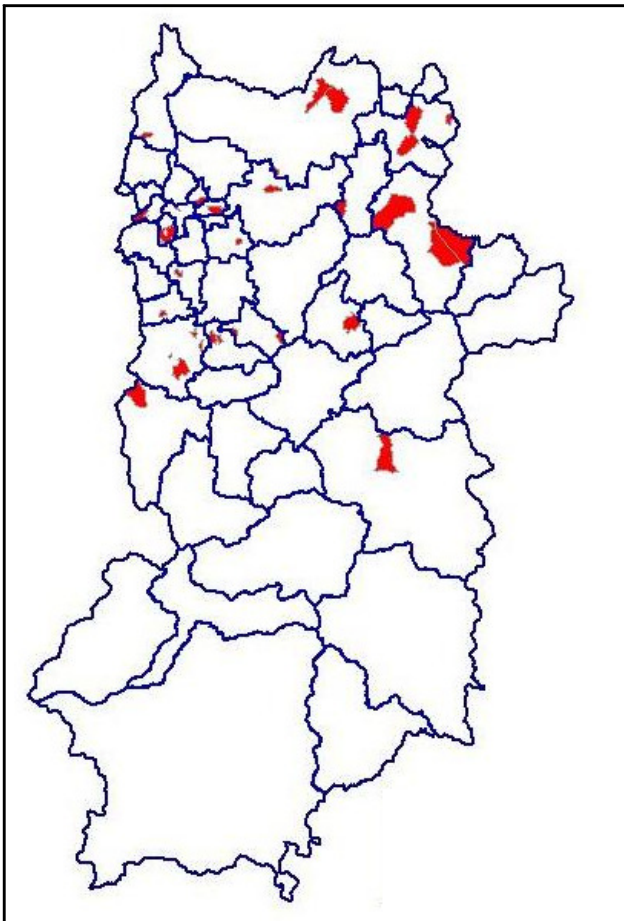
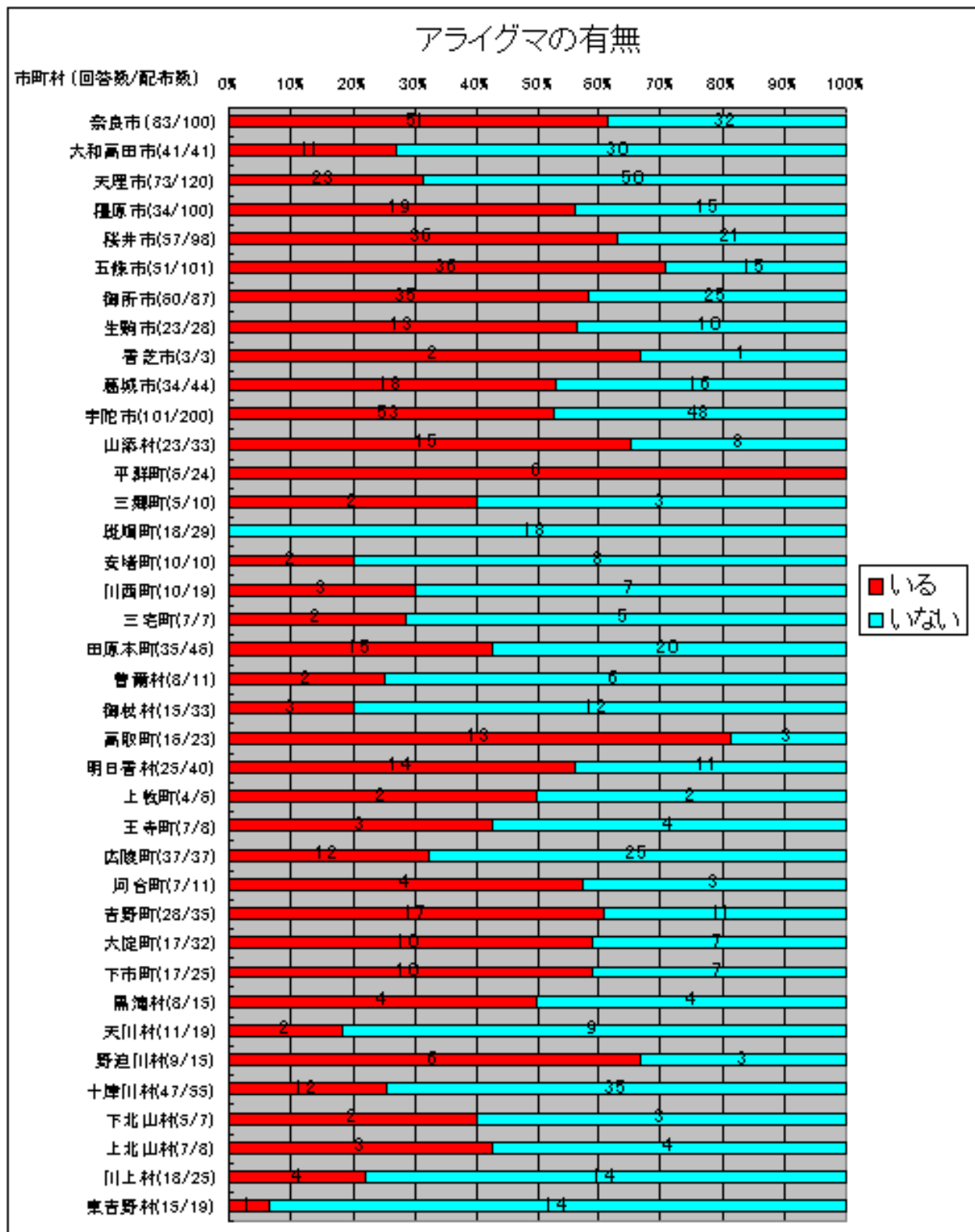


図 アライグマによる衛生被害

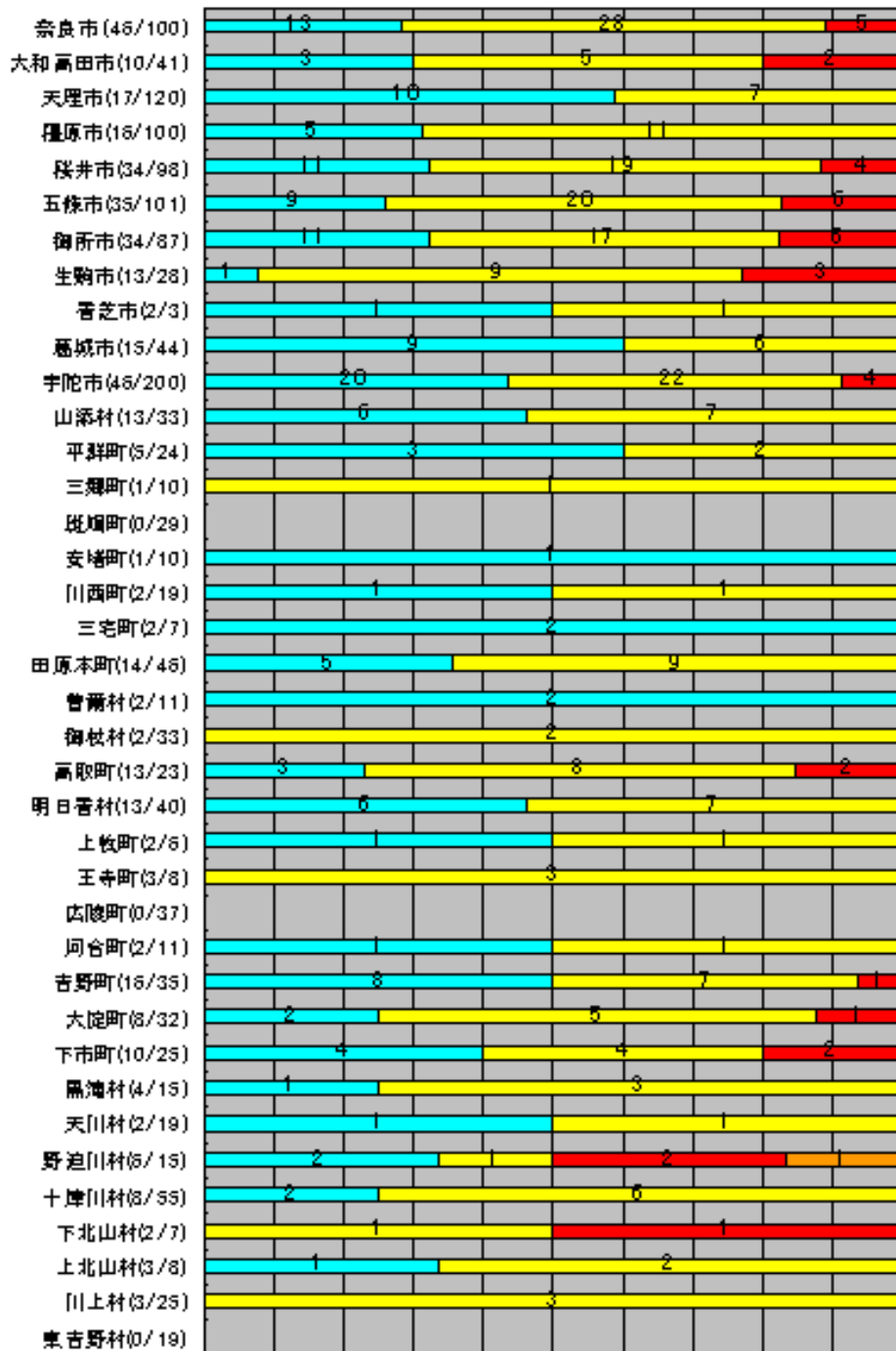
右図は平成21度の農業集落アンケートによる、アライグマによる衛生被害の意識調査の結果である。「家屋に住み着く、糞尿被害がある」を衛生被害として問うている。参考資料2で回答があっても、本質問に回答が無い場合は色つけをしていないので、それらを含めた場合は色がつく集落はもう少し多くなり、色が付いていない市町村でも衛生被害が生じていることになる(例えば桜井市、下北山村など)。

参考資料・1) 平成21年度の農林集落アンケート調査の市町村別の回答状況



アライグマ出没状況

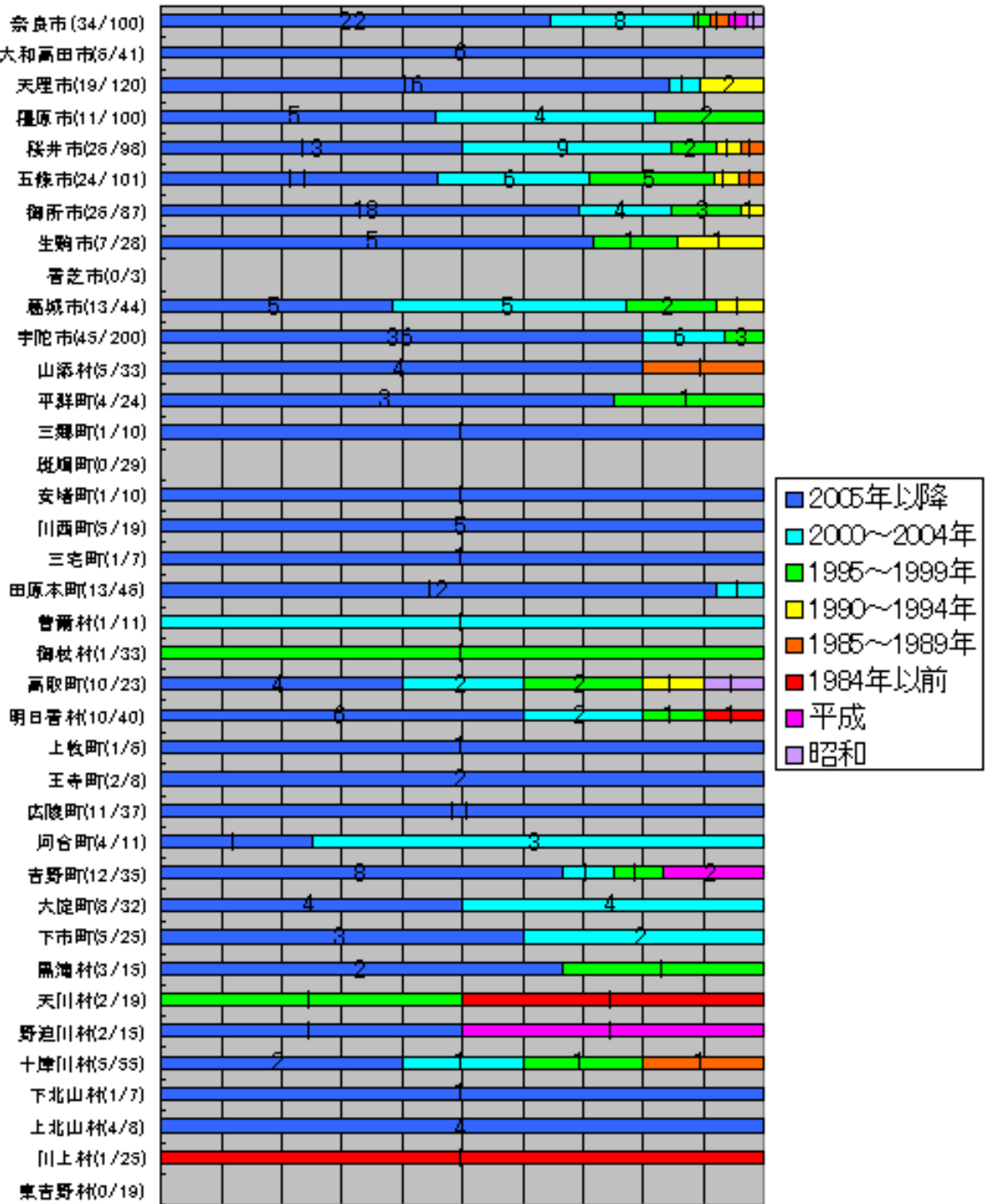
市町村(回答数/配布数) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 1.あまり見ない
- 2.たまに見る
- 3.よく見る
- 2.&3.

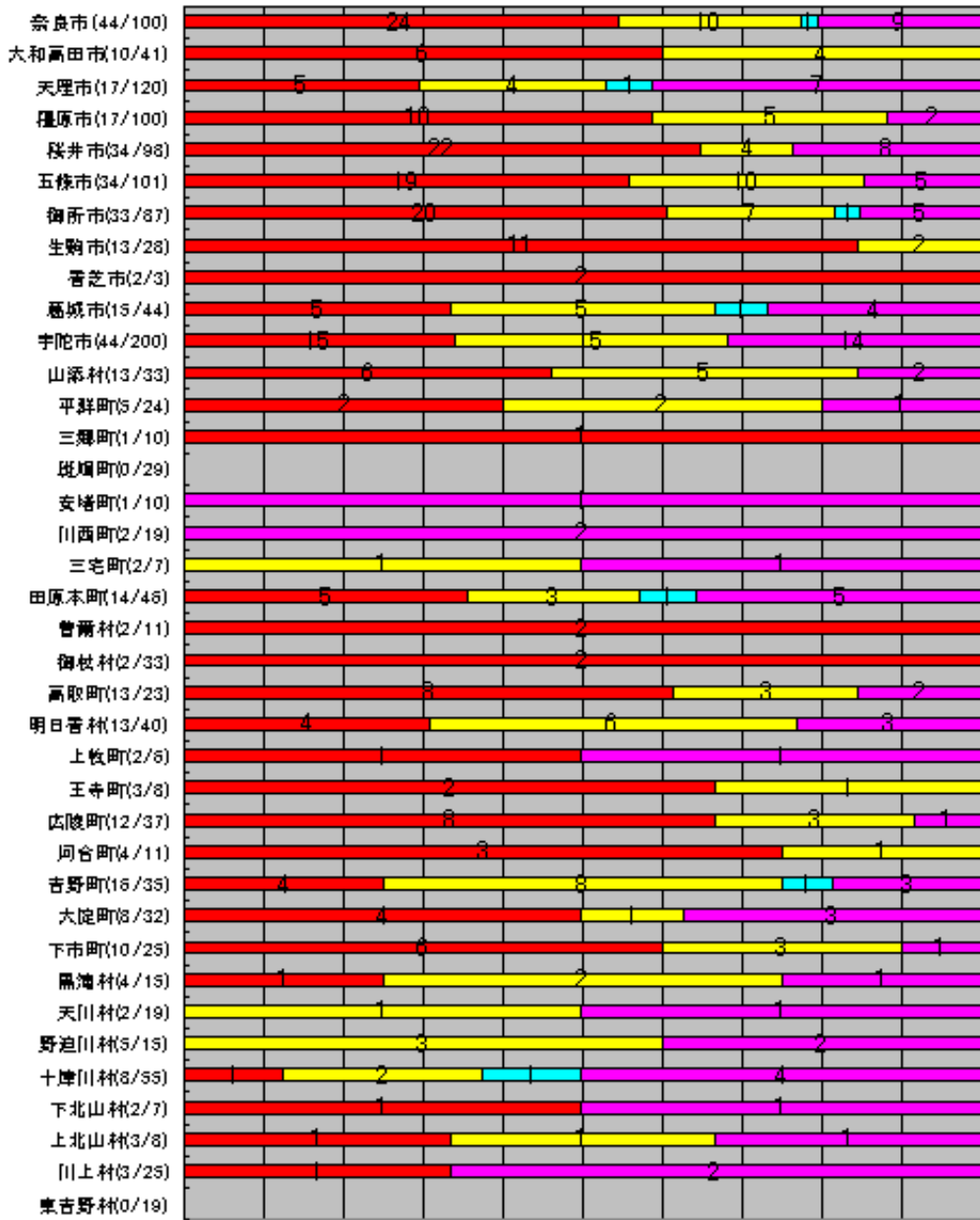
アライグマ出没年度

市町村(回答数/配布数) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



アライグマの増減

市町村(回答数/配布数) 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

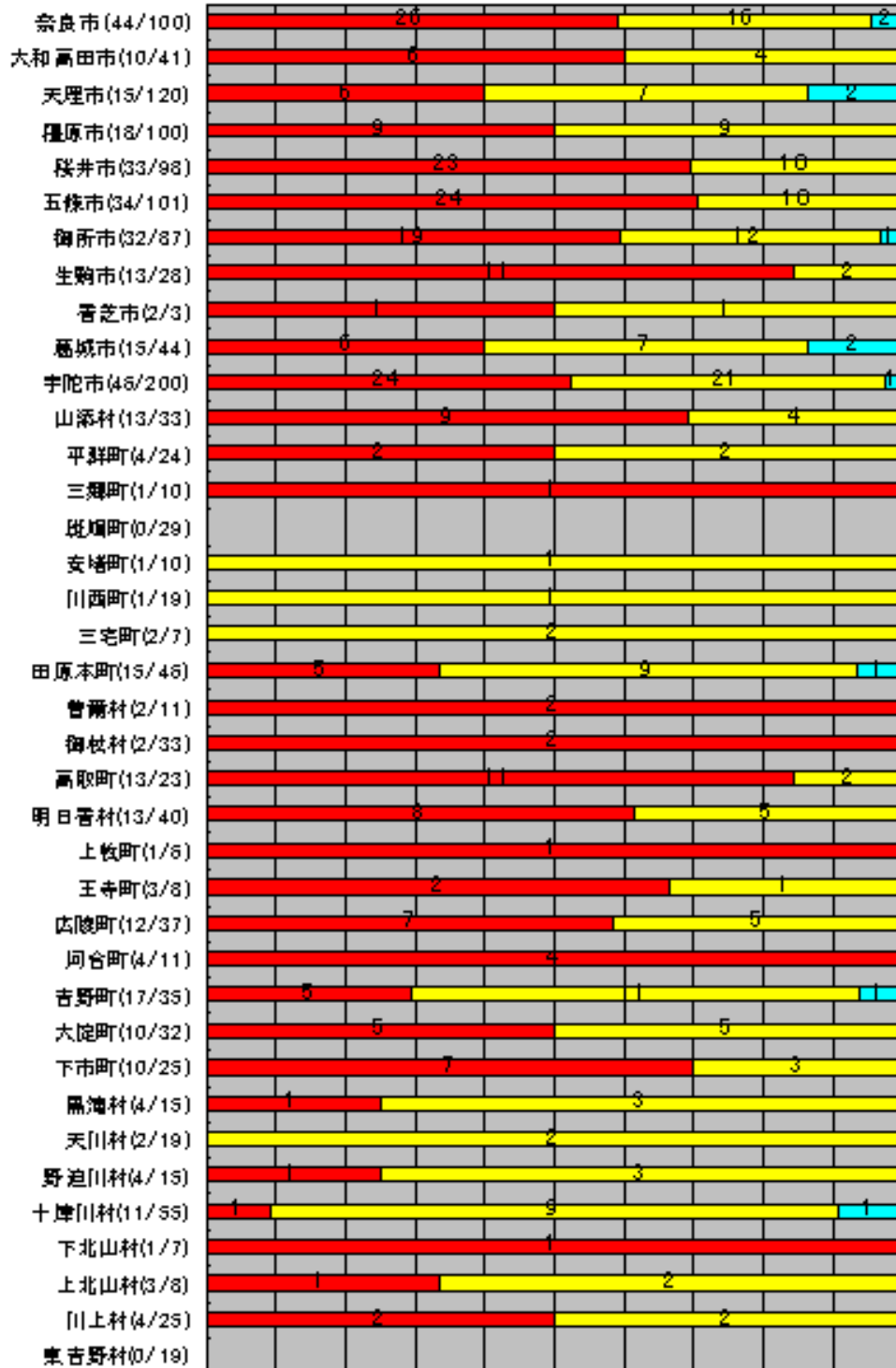


- 増えた
- 変わらない
- 減った
- わからない

アライグマ被害増減

市町村(回答数/配布数)

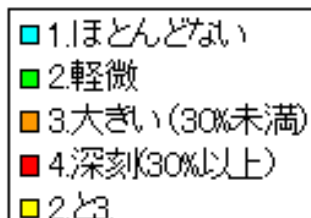
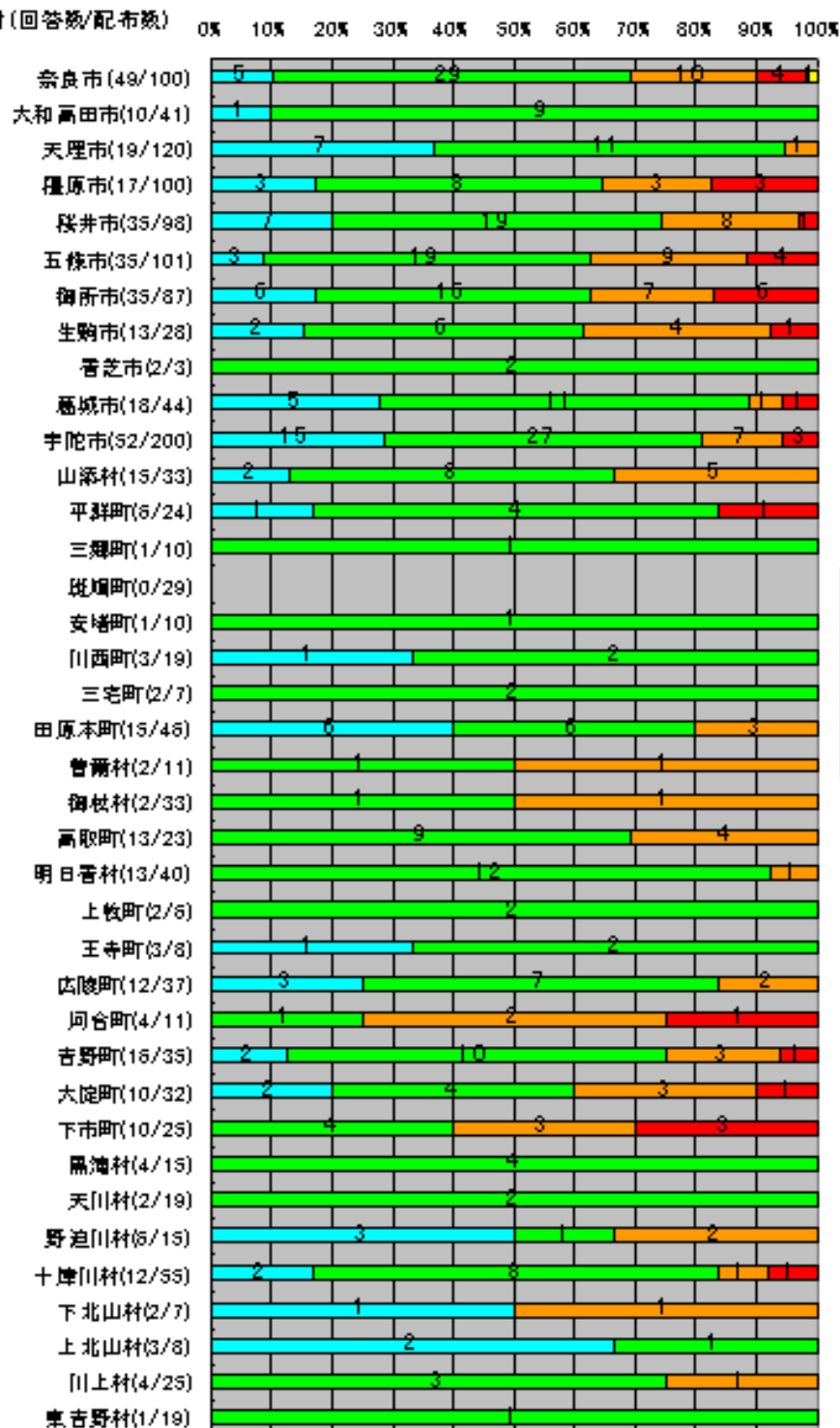
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 増えた
■ 変わらない
■ 減った

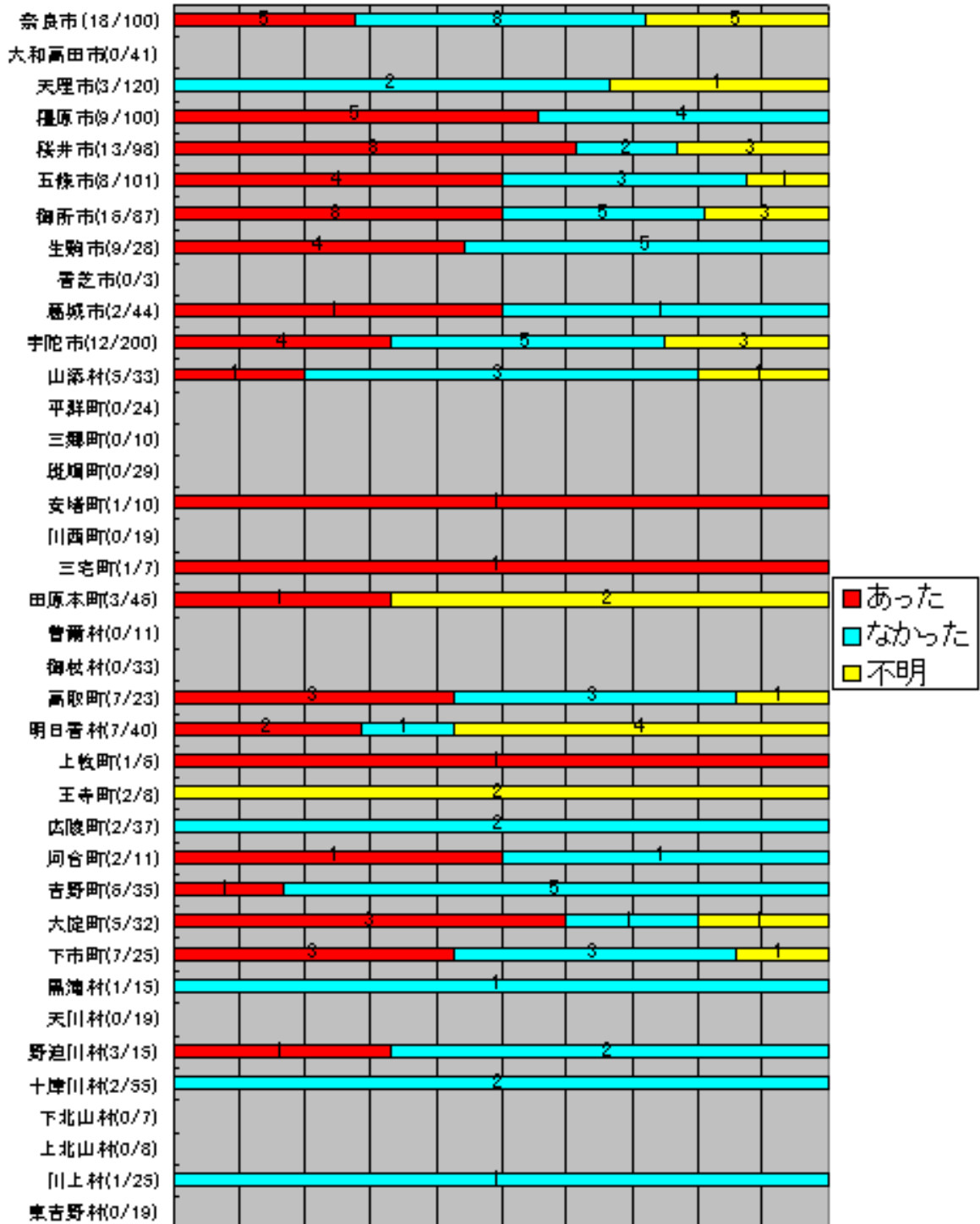
アライグマ被害程度

市町村(回答数/配布数)

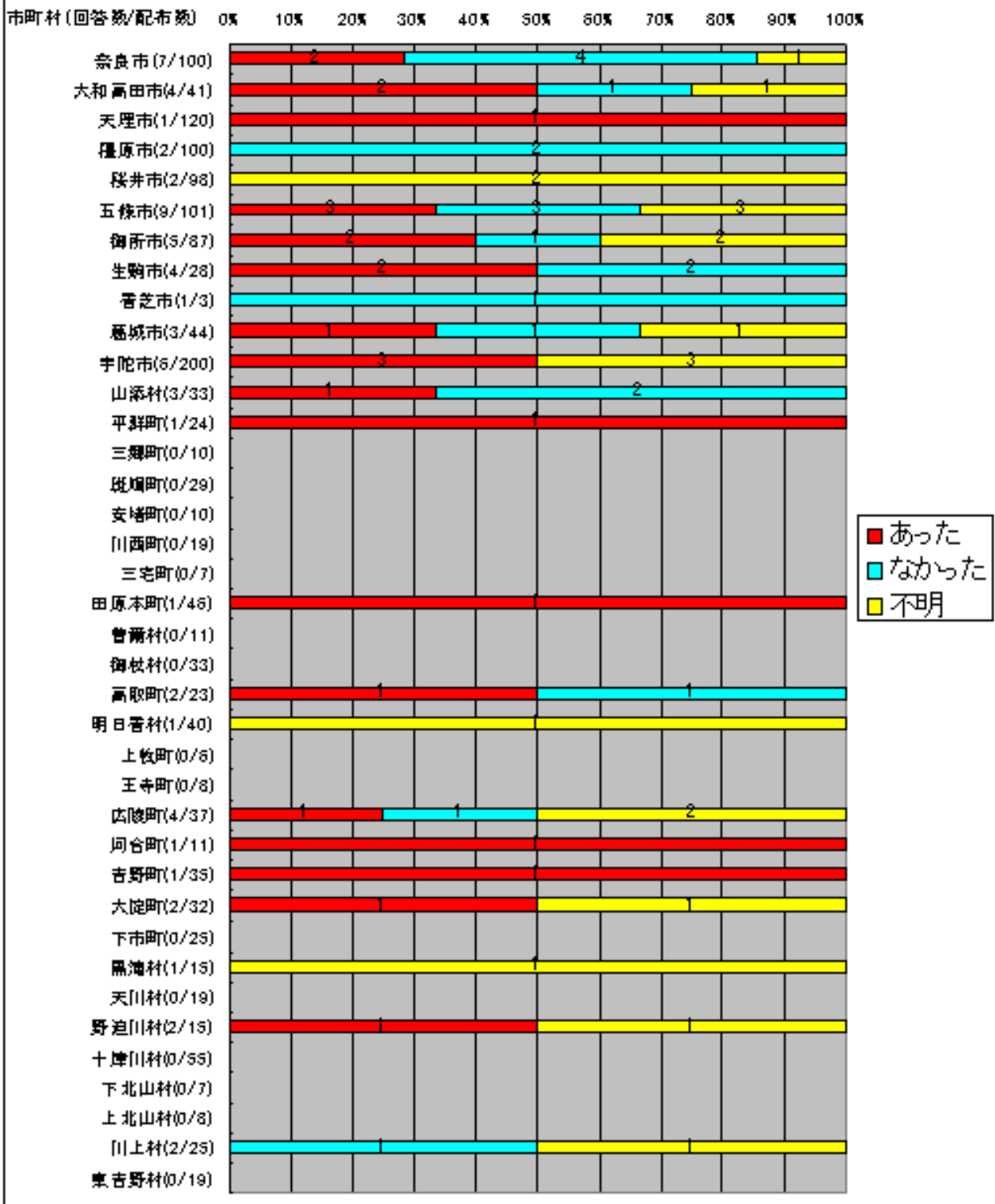


アライグマ防護柵の効果

市町村(回答数/配布数) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



アライグマ有害捕獲の効果



参考資料・2) 平成21年度の農林集落アンケート調査のアライグマ被害等について抜粋

アンケート調査の備考に記載されていた内容の抜粋になります。単に農業被害がある、農業被害が増加しているといった内容以外の事項のみ抜粋しています。捕獲等については市町村にも周知し、すぐに改善できる余地があります。

奈良市

- ・天井に住み着く
- ・家屋内侵入し餌をあさる
- ・農業被害痕がタヌキやカラス等と判別しにくい
- ・他の中型獣と判別しにくい

天理市

- ・寺、民家天井に住み着く

橿原市

- ・畝傍山に住み着く？
- ・空き家に住み着く

桜井市

- ・堆肥作成場をあらす
- ・近所の木に登っていた
- ・免許無しで捕獲できるようにして欲しい

五條市

- ・家の中で出産

御所市

- ・捕獲わなの貸し出しをして欲しい
- ・防護柵の助成をして欲しい

生駒市

- ・捕獲わなの貸し出し数を増やして欲しい(順番が回ってこない)

葛城市

- ・神社に爪痕ある

宇陀市

- ・他の動物と被害の判別が難しい

川西町

- ・空き家にいるようだ

高取町

- ・廃屋や納屋で見た

明日香村

- ・寺院に住み着く

上牧町

- ・寺院で捕獲事例有り

大淀町

- ・野小屋に住み着く

下市町

- ・農業被害大きい、現地に来てみて下さい

下北山村

- ・民家に住み着く

川上村

- ・寺院に住み着く